

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学実習Ⅰ	1	後期	2	実習 90時間
担当教員	久保幸代、志村千鶴子、下睦子			
授業概要	妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面を統合的に理解し、必要な助産ケアを実践し、助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を習得する。受け持ち産婦の助産過程を展開し、分娩経過の診断、対象の健康状態のアセスメント、ケア、実施、評価を行い、出産時の助産実践に必要な能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、ケア計画の立案と助産ケアを実践できる。 2. 助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を身につける。 			
履修条件	特になし			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正常分娩で分娩第1期から分娩第3期終了2時間までの産婦を受け持つ。 ・ 正常経過の産婦を受け持ち(3例)、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。受け持ち産婦の、助産診断とケアの一連の助産過程を実施・評価する。 ・ 1-3例目までの受け持ち産婦・褥婦に関し、基本的な理論・知識の活用、基本的な産婦の支援・分娩介助技術を実施し、自己評価できる。 ・ 妊婦の健康診査と保健指導を見学し、妊婦のスクリーニング・フィジカルアセスメント・保健指導の一連を理解する。 			
教科書	特に指定しない			
参考書	特に指定しない			
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成行動による総合的評価(60%) ・ 実習記録による学習成果(40%) 			
事前・事後学習	<p>事前学習：既習の妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面について復習しておく。</p> <p>事後学習：受け持ち事例に実施した基本的な産婦の支援・分娩介助技術について自己評価し記述する。</p>			
備考	特になし			